

巻頭言

例年になく、あたたかい3月、卒園式も終わり、新学期の準備に大わらわな時期を迎えました。40年前は春休みが取れたのですが、最近は忙しい春休みになりつつあります。この1年を振り返りますと、いろいろなことがありました。

- 4月には新制度が導入され、施設型給付を受ける幼稚園に20ケ園移行されました。収入額は増加したものの毎月の請求申請や報告案件の事務量が増えて困っているとの声が寄せられています。移行された施設の子どもたちの様子に特段変わったところはないものの、教員や保育士の働き方に工夫すべき点があるとの声も寄せられています。そのための研修会や情報交換も必要と考えております。
- 7月に入り、幼児教育振興法制定のための署名活動がありました。あまりにも急な話で、周知徹底に苦労しましたが、保護者の方々のご協力により、全国から630万人を超える署名をいただき、今国会に提出する予定になっております。幼児教育の無償化、教員の質の向上、地域や家庭の教育力の向上、地方自治体の支援体制の整備等が主な柱になっております。
- 11月の園児募集受付に伴う新規教員の採用を養成校に提出したところ、募集時期が遅いということもあり、教 員不足が表面化いたしました。次年度の対応策として、7月ごろまでに、各園の特徴を記したパンフレットを 作成し、学生に配布するとともに、初任給の改善、残業時間の短縮等、学生が応募してくれる環境作りに取り 組む必要があります。各園のご協力をお願い申し上げます。
- 12月には就園奨励費補助金が交付され、約8割の園児が減免の対象になりました。来年度はさらに多くの園児が対象となるよう、国や関係機関に働きかけてまいります。来年度の運営費補助金の単価も関係者の働きによりまして、1,028円増額となりました。関係者に改めて感謝申し上げます。



Glose · up 理事会

平成27年度宮私幼理事会の概要(10月~3月)

【平成27年度第4回理事会】

日 時 12月2日(水)午後3時~

場 所 仙台ガーデンパレス 亀甲の間

議事

- (1) 各委員会9月~11月の事業報告について
 - ○常任理事会
 - ○総務・給付委員会
 - ・実態調査アンケートについて
 - 経営委員会
 - ・3月3日設置者・園長研修会について
 - ○研究委員会
 - ・来年度の研修計画等について
 - ○広報委員会
 - ・HPのリニューアルについて
- (2) 教育研究発表大会【3月23日(水)】について

報告事項

- (1) 東北地区会11/13(金) 経営研究・政策総務担当 者連絡協議会の報告
- (2) 幼児教育振興法(仮称)制定に向けての署名について
- (3) ネパール大地震の義捐金

【平成27年度第5回理事会】

日 時 2月16日(火)午後2時~

場 所 宮私幼会議室

議事

- (1) 施行規則及び諸規定の一部改正(案)について
- (2) 平成27年度 第2回定時総会の議案書について

第1号議案 平成27年度一般会計収支補正予算

(案)及び退職手当資金給付事業特別会計収支補正予算(案)並びに受

託事業収支予算(案)について

第2号議案 平成28年度事業計画(案)について

第3号議案 平成28年度一般会計収支予算(案)

及び退職手当資金給付事業特別会 計収支予算(案)について

報告事項①施行規則の一部改正について

②その他

その他 平成28年度園児募集の日程等について

- (3) 第2回定時総会の議長、議事録署名人及び司会者について
- (4) 義援金の配分について
 - 豪雨義援金
 - · 東日本大震災義援金
- (5) 平成29年度開催東北地区教研大会〈宮城大会〉の 開催について
- (6) 宮城学院女子大学 発達科学研究所公開講演会 からの後援名義使用申請について

報告事項

- (イ) 就職内定学生実習期間の傷害保険の申し込み状 況ついて
- (D) 宮私幼教育研究発表大会 3月23日(水)の役割 分担について
- (n) 平成28年度以降の新システムへの移行(予定)調査結果について
- (二) 優秀教員表彰及び永年勤続表彰について
- (ホ) 市町村補助金調査表について
- (4) 講師謝金の源泉所得税について
- (ト) その他
 - ・今後の予定について



○関係機関団体

- 9/4 第9回学ぶ土台づくり推進連絡会議(KKRホテル仙台)
- 10/20 第40回宮私幼PTA親善バレーボール大会(グランディ21)
- 10/28 宮城県私学振興大会(電力ホール)
- 11/9 日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議(仙台ガーデンパレス)
- 11/13 宮城県子ども・子育て会議(宮城県行政庁舎)
- 11/26 第1回宮城県教育振興審議会(宮城県行政庁舎)
- 1/7 第29回仙私幼教員研修大会(太白区文化センター)

○全日私幼連

- 9/2 臨時·理事会 (東京)
- 9/17 (仮)幼児教育振興法の早期制定を求める全国集会(東京)
- 9/28 平成27年度・102条園研究会議(東京)
- 10/15 第8回都道府県政策担当者会議(東京)
- 10/23~24 第30回東北地区私立幼稚園教員研修大会〈山形大会〉
- 10/24 公開保育コーディネーター養成講座(山形)
- 10/26~27 第31回設置者・園長全国研修大会(岩手県)
- 11/13 平成27年度東北地区会経営研究·政策総務担当者連絡協議会(福島)
- 12/1 団体長会・理事会合同会議(東京)
- 1/18 後継者育成研修会(東京)
- 1/21~22 全国研究研修担当者会議(京都)
- 1/29 団体長会・理事会合同会議(東京)
- 2/16 公開保育コーディネーター養成講座(京都)
- 2/19 常任理事会
- 2/26 第2回東北地区・団体長会議及び事務局長会議(福島)
- 2/29 平成27年度 · 102条園研修会(東京)
- 3/4 理事会 (東京)
- 3/23 免許状更新講習(第4回選択) (イズミティ21)

○宮私幼のあゆみ

- 9/9 総務給付委員会
- 9/15 研究委員会
- 9/18 広報委員会
- 10/7 石巻地区教育振興大会·PTA研修大会
- 10/14 総務給付委員会
- 10/15 研究委員会
- 10/28~11/1 造形教育作品展(宮城県美術館)
- 11/17 研究委員会
- 11/18 総務給付委員会
- 11/24 広報委員会
- 12/2 理事会·広報委員会
- 12/8 総務給付委員会
- 12/16 研究委員会・教育研究発表大会事前打合せ会・地区研修担当者連絡会
- 12/24 総務給付委員会
- 1/6 知事陳情打合会
- 1/12 知事陳情•宮城県議会議長陳情
- 1/20 総務給付委員会
- 1/27 研究委員会
- 2/15 常任理事会·総務給付委員会合同会議
- 2/16 理事会·広報委員会
- 2/29 研究委員会・教育研究発表大会事前打合せ会
- 3/3 設置者園長研修会・第2回定時総会(東京エレクトロンホール宮城)
- 3/17 研究委員会
- 3/18 社会保険労務士による個別相談会
- 3/22 総務給付委員会
- 3/23 宮私幼教育研究発表大会 (イズミティ21)

○慶 弔

- 11/6 宮城県知事表彰(教育文化功労)受賞 根來 宣昭先生(多賀城高崎幼稚園)
- 10/18 萩野 浩基先生 (認定こども園福聚幼稚園・ふくじゅ保育園 園長) ご逝去
- 12/22 千坂 秀也先生(塩釜第二中央幼稚園 理事長・園長)ご逝去

最近の私立幼稚園を巡る動向について

宮城県総務部私学文書課長

中 村 今日子

宮城県私立幼稚園連合会の皆様方には、本県の幼児教育の振興に対して、格別の御協力をいただき、 心より感謝申し上げます。

さて、東日本大震災から5年の月日が経過いたしました。この間、県では多くの方々からの御支援のもと、全力で復旧・復興に向けて取り組んでまいりました。県内でも多数の私立幼稚園が被害を受け、保護者の皆様を始め関係者の皆様方には大変な御苦労があったことと思います。そうした厳しい状況を乗り越え、会員の皆様や教職員の皆様の熱意によって、多くの幼稚園が再開されました。この春には、これまで仮園舎で活動していた南三陸町のあさひ幼稚園が、新園舎を再建され、新しい一歩を踏み出そうとされております。

園児達の明るい声や、元気が溢れる姿は、ふるさと宮城の復興の象徴となるものであり、復旧・復興に向けて一歩ずつ着実に歩みを進めていることを感じさせてくれます。

宮城の未来を担う子ども達が夢と志を持って安心して学べる教育環境を確保するため、県では、被災された御家庭の状況に応じた保育料の減免補助を平成23年度から実施しており、平成26年度までの間、延べ14,045人の園児を対象に減免を行ってまいりました。今後も様々な施策を通じて、震災からの復興に向けて引き続き支援してまいりたいと考えております。



さて、平成28年 度は、10年間の 「宮城県震災復 興計画」の折り返 しに当たるとと もに、「再生期」

の3年目になります。復旧・復興に向けた施策に最優先で取り組むとともに、人口減少対策や地域経済の活性化策など地方創生に向けた取り組みを進めていくこととしております。我が国の平成27年の出生数は5年ぶりに増加に転じ100万8,000人と推計されておりますが、少子化の現状は社会経済の根幹を揺るがしかねない危機的な状況となりつつあります。本県におきましても、少子化対策として、若い世代の経済的安定を図り、結婚・妊娠・出産・子育でについて切れ目ない支援を行っていくこととしており

ます。

このような中で、平成27年4月 にスタートいたしました「子ど も・子育て支援新制度」は子育て に優しい社会を築いていくため に大変重要な柱となる制度です。



平成28年4月には、本県の私立幼稚園の新制度への移行園数は28園(幼保連携型認定こども園11園、幼稚園型認定こども園5園、施設型給付幼稚園12園)となる予定です。

全国の状況を見ますと、私立幼稚園約8,000園のうち、平成28年度までに新制度に移行する幼稚園(移行する方向で検討中を含む。)は、全体の30.7%に当たる2,486園となる見込みです。このほか、今後新制度への移行を検討中としている園が全体の55.1%に当たる4,465園となっております。

私立幼稚園の新制度への円滑な移行に向けた主な 課題として、①地方自治体、事業者に制度の周知が 充分に浸透していない、②移行に当たっての事務負 担の軽減、③収入面での不安、④有資格者(幼稚園 教諭・保育士)の確保等が挙げられております。ま た、制度の実施主体である市町村との関係構築、あ るいは保護者の理解が得られるかについて不安を感 じている園も多いと伺っております。。

こうした状況を踏まえ、国も改善策を検討しているところであり、特に有資格者不足への対応として一時預かり事業(幼稚園型)や施設型給付における加算等に係る職員の資格要件等の緩和を検討しております。

県と市町村におきましても、こうした課題を一つ 一つ丁寧に検討しながら、移行を希望する私立幼稚 園が円滑に移行することができるよう、引き続き取 り組んでまいります。

今後も、「私学助成制度」と新しい「子ども・子育て支援新制度」とが併存していく形となりますが、 私立幼稚園に対しましては、これまで以上に良質な幼児教育の提供や、地域の子育て家庭への支援といった役割を担うことが期待されていくものと思います。会員の皆様におかれましては、これまでに培ってこられた幼児教育に関する専門性や指導力を生かし、子ども達の健やかな成長を支えていただきますようお願い申し上げます。

平成27年度 **宮私幼教育研究発表大会**

大会テーマ:「園内研修を支える教師の同僚性について考える」

日時 平成28年3月23日(水) 9:45~15:00 <u>会場</u> イズミティ21(仙台市泉文化創造センター)

第1部 開会行事

小野寺靖子研究委員長の司会により進行し、鎌田文惠宮私幼副理事長の開会の挨拶に始まり、お人形社幼稚園横澤行夫園長先生の指揮のもと「幼稚園賛歌」を斉唱し、続いて村山十五宮私幼理事長が挨拶されました。「日頃、私立幼稚園の振興のためお世話になっている安部孝県議会議長、県知事代理の中村今日子私学文書課課長、宮私幼P



の研修会を通して一年間の保育実践を振り返り研修を深めていただきたいと思います。県内の私立幼稚園では平成28年4月から15園が新制度に移行する予定となっておりますが、それぞれの施設は

同じ子どもたち のためにあるの で、それぞれの 立場を生かした 宮私幼にしてい きたいと思いま す。」



永年勤続教員表彰では、56名の先生方が表彰され、あらまき幼稚園の小野庸子先生が代表でお受け取りになり、謝辞を述べられました。

ご来賓として、村井嘉浩宮城県知事の祝辞が中村課長により代読されました。「東日本大震災から5年経ち、多方面からご支援をいただき各地で復旧・復興に尽力しておりますが、平成28年度は宮城県の復興計画10年の5年目の節目を迎え、創造的な復興を進めて参ります。新制度は昨年4月からスタートしましたが、大きな混乱もなく実施されたのは、関係者の対応と保護者の皆様のご理

解・ご協力によるものと感謝申し上げます。新制度は消費税を財源として教育保育の量と質、施設や職員の改善を図り子どもたちが豊に育つ子育て支援の向上を目指しております。今後、これまでの私学助成と新しい制度のもと、県としても幼児

教育の更なる充実 を図って参りま す。」

安部議長様より もご祝辞をいただ きました。「幼児



期は感性、知性、社会性と言った、人格形成の極めて重要な時期です。最近、子どもの生育環境は大きく変化し、少子高齢化や都市化を背景に地域のコミュニティ機能や家庭力の低下が懸念されています。このような中、県内の私立幼稚園関係の皆様方が一堂に会し、活発に研究討議されることは幼児教育の発展に寄与し、意義深いものです。県議会としても関係機関との連携を密にし、私学振興と充実のために子どもたちの健全育成に力を尽くしますので、皆様のなお一層のご尽力をお願いたします。」

宮私幼PTAを代表して中島源陽副会長(宮城県議会議員)が祝辞を述べられました。「日頃各幼稚園のPTA活動が保護者と先生方に支えられていることに感謝申し上げます。子どもたちの一人一人の違いを日々見て伸ばそうとしている先生方に敬意を表します。能力は大事ですが、それ以上に人とどう関わるかが重要で、実際の仕事にも通じるものと思います。月1回の幼児学級に通っていましたが、楽しく明るい先生を中心に友だちと遊んだことが今でも残っており、人との繋がりが楽しいことを幼児期に教わりました。今日の研修会で得たものを財産としてお持ち帰りいただき、現場に活かしていただきたいと思います。」

ご来賓のご紹介に続き、佐藤宏郎宮私幼副理事 長により閉会の言葉があり、第1部開会行事を終 了しました。

第2部 分科会

第2部の分科会については、「平成27年度幼稚園教育研究紀要」に詳細に掲載されるので、簡単な紹介に留めます。

第1分科会(大ホール)

「縦割り保育が子ども同士のかかわりや心の成長にどのように生かされているか考える」「室内環境の見直し」



第2分科会(小ホール)

「園内研修の活性化における同僚性の構築~子どもの遊びを通して~」

「幼稚園行事の取り組みについて」



第3分科会(展示室)

「子どもの体力づくり~ 職員間の共通理解と連携 ~」「行事の取り組みにつ いて~子ども達と作り上 げる運動会~運動会に向



けての子ども達の取り組みと保育者の関わりの姿 を追う」

昨年に引き続いてのポスター発表には、たくさんの「いいね」や疑問、質問が寄せられ、たくさんの先生方が熱心に見入っていました。



第3部 講演会(要旨)

演題「園内研修を通して ~同僚性について~」 講師 大妻女子大学 家政学部児童学科

教授 柴崎 正行 氏

私たちが求められる質の高い保育とは?から説き起こし、保育の質を支える大きな柱として、保育者の同僚性・協働性(保育者間の助け合い、仲の良さ)を挙げられ、保育者の同僚性・協働性を醸成するような園内研修の進め方についてお話を伺いました。

まず、保育の質を考える時、第三者評価との関

連からも、子ども、保護者、教職員、地域からの評価がどうか、広い観点から保育に対する満足度を考える必要があり、例えば、保護者の目線で保育の質を考えると、



- ●質の高い保育を受けさせたい
- 保育者間が仲の良い園に入れたい
- 多様な問題に対応できる園に入れたい
- ●子どもの成長をよく理解し伝えてくれ、困った 時に相談に乗ってくれる園

というようなことが挙げられました。 子どもについて考えてみると、

- ◆体操、縄跳、サッカーなどで、他児よりも上手でなくても自己課題・自己挑戦する姿
- ●自分や親しい友達が、他児と同程度に楽しんでいけるようになることの安心感
- ●子ども自身が園生活で仲間ができ、互いに成長 し合っていける安心感
- ●子ども自身が次第に自立的に成長していける といったことを具体的な事例としてお話されました。

私たちはこれらの 課題を解決し、質の 高い保育の提供が求 められていますが、 これらの課題の多く



は、個々の保育者の取り組みで解決を見いだすことは困難で、園内研修の課題として取り組み、関係する保育者がチームとして、それぞれの同僚性・協働性によって、より良い解決策を生み出すことができます。

更には、負担が少なく楽しい園内研修にするためのアドバイスとして、まず、課題の緊急度合からの優先付けをして進める工夫、話し合いの調整役(ファシリテーター)の役割と重要性について触れられました。最後に園内研修での成果を、子どもの成長を記録に残す、保護者会での保護者との対話での活用、クラス便りや園だよりなどに活かす工夫についても言及され、それぞれの園で園内研修の成果を活かす工夫をし、保育の質を高めることに役立てて欲しいと結ばれました。

(尾花 耿二・小川せつ子・鎌田 俊昭)

宮城県知事・議会議長への陳情

1月12日、私立幼稚園の運営に大きな影響がある宮城県の補助金等引き上げに関する要望書を提出し、宮私幼から村山十五理事長外6名、宮私幼PTAから渥美巌会長外11名が村井嘉浩宮城県知事と安部孝宮城県議会議長に陳情に行きました。他にPTAからは佐々木幸士宮城県議会議員のご子息晴空(はるく)君(富沢幼稚園)が強力なちびっ子助っ人として参加し、和やかな中に真剣な陳情がなされ、宮私幼ならではのことかと実感しました。



要望書の要旨 -

- 1. 全国42位という、私立幼稚園運営費補助金の順位 (学校法人分)を、宮城県の各種統計順位や県財政力 に相応しい順位に改善するように要望いたします。
- 2. 宮城県私立幼稚 園連合会の退職手 当資金給付事業に 係る県補助金を、 人材確保の観点か ら1000分の1引き



上げていただきたく要望いたします。これに対して 村井知事からは、ご承知の通り、県財政が厳しいが、 国の交付税を待ってできる限り善処したいとの回答 がありました。その後、訪問した安部孝宮城県議会 議長からも出来るだけ国の算定通りに交付されるよ うに尽力したい旨の回答がありました。

教育文化功労 根 來 ^{宣 昭 先生} おめでとうございます 県 治 功 労 渥 美 巌 様

期日:平成27年12月2日(水)午後5時30分~ 会場:仙台ガーデンパレス

祝賀会は、根來先生、渥美先生の入場に始まり、発起人鎌田文惠先生が開会の挨拶の中でお二方の紹介をされました。お祝いの言葉として



村山十五宮私幼理事長が、「根來先生は長年の教員生活、宮私幼役員、多賀城市子ども子育て会議委員などの社会的貢献が認められ、渥美先生におかれましては長年の県会議員、宮私幼PTA会長としての功績が認められての受賞となりました。今後とも、私立幼稚園を取り巻く環境は厳しいが、健康に留意されてより一層のご支援を賜りたい」とお話になりました。花束贈呈に続いて受賞者のご挨拶となりました。

根來先生は「長い公立学校の教員として子どもの教育のすばらしさを実感すると共に、問題ある中学生の90%が幼児期の育ちにあると言われております。平成2年より園長に就任しましたが、多賀城高崎幼稚園が今日あるのは歴代の園長、宮私幼等から温かい援助があったためで感謝しなければなりません。子どもの素直な表現に学ぶところが多く、今そうありたいと努力しています。これからの人生を家庭と連絡を密にし協

力を得ながら幼児教育のために尽くし、残された時間を 子どもたちと共にありたい。」と述べられました。渥美 先生は、「もともと役場に勤務しており、県政に一般の 方々の意見が届かないと常々考えていました。47歳の時に 推されて県会議員になりました。平成17年に大合併して 東松島市となり、無投票でしたが、地域のことをしっか りやっていたので当選することが出来ました。その後、 宮私幼PTA会長をお引き受けし、今日まで幼児教育 のお手伝いをさせていただき、PTAの目的の一つ保 護者の負担軽減を目指しているが、まだ期待に応えて いません。大震災以降、県財政の厳しい中、宮私幼と 一緒に交渉しているが、全国下位に甘んじているので、 今年も知事と議長に要望しております。この度の受賞 を機会に原点に戻って子どもが安心して育つ環境を 作っていきたいと思います。」と話されました。矢本は なぶさ幼稚園園長稲富將夫先生の乾杯のご発声と共に

祝宴がはじまりました。和やかで楽しい宴もあっという間に過ぎ、発起人佐藤宏郎先生の閉会の挨拶でおひらきとなりました。



平成27年度 設置者・園長研修会 / 第2回定時総会

日時:平成28年3月3日(木) 会場:東京エレクトロンホール宮城

【第2回設置者・園長会議】

去る3月3日午前11時より、東京エレクトロンホール宮城を会場に、平成27年度第2回目の設置者・園長研修会が、「マイナンバー制度及び就業規則について」というテーマで開催されました。

はじめに村山十五宮私幼理事長が挨拶し、継続的な教員 不足が問題となっており、待遇や労働時間の改善、とくに 初任給や残業への適切な処遇が課題であると述べました。

引き続いての講演で、幼稚園など幼児教育施設で助言指 導に当たってこられた高橋道枝社会保険労務士から、マイ ナンバー制度及び就業規則についてお話をいただきました。

昨年12月から実施されたこの制度では、マイナンバー(個人番号)の使用は、社会保障、税、災害対策の3領域に限られていますが、幼稚園での事務手続きにおいては個人番号が記載された書類やデータ(特定個人情報)の多岐に渡っての厳重な管理が求



められることになります。これに対応するための準備として、個人番号が必要となる事務をあらかじめ洗い出しておくこと、特定個人情報を取り扱える職員を特定のものに限定し職員に周知すること、その扱いの各段階での処理を決めておくことなどのご助言をいただきました。例えば、郵送の場合は追跡できるものとすること、直接提出の場合は寄り道をしないなど具体的な取り決めが必要になるとのことでした。

その他にも、個人情報に関する従業員教育の徹底、取扱 区域や管理区域の明確化、パソコン管理の場合のセキュリ ティ対策、紙媒体管理の場合の鍵付きの保管場所、委託の 場合の契約書の作成、その他具体的にお話しいただきまし た。質疑では講演者などへの依頼状でマイナンバーの提出を 依頼することなどの手立てを具体的にお教えいただきました。

就業規則については、近年、教職員の親や配偶者などか らのクレームがある場合があり、適切なものにしておくこ とが求められます。就業規則を労働管理のマニュアルとし て積極的に活用するというアイディアもお示しいただきま した。就業規則などには労働者代表の意見書の添付が求め られますが、その場合の「労働者代表」も選出の手続きが適正 でないと無効になるので注意が必要です。また就業規則を 整備するだけでは十分ではなく、労働者に周知していない場 合、法的効力をもたないので、とくに重要なこととして言及 されました。時間外労働については各幼稚園で難しい問題 ですが、就業規則に割増賃金の計算方法を明記することや、 「職務手当」「バス添乗手当」等の名目でも時間外手当である との明記を欠く場合、それが認められないだけでなく、時 間外手当計算の基礎に入れられてしまうので注意が必要で あるなどの助言をいただきました。またお泊り保育での仮 眠も、別室で完全に労働から解放され自由に利用できる時 間帯を設ける配慮をしなければ、労働時間として判断され てしまいます。

時間の関係で準備いただいた内容を十分網羅することは できませんでしたが、マイナンバー制についても就業規則 についても詳細な内容が記された資料を配布していただい たことは大変ありがたいことでした。

【第2回総会】

設置者・園長研修会に引き続き、午後1時30分より、宮 私幼総会が鎌田文惠副理事長の開会の挨拶及び幼稚園賛歌 斉唱をもって開催されました。

はじめに村山十五理事長が挨拶し、教員不足解消の一環として処遇改善の必要について、私学助成から離れた助成が盛り込まれている幼児教育振興法について、また、認定こども園の振興について話されました。

引き続き来賓として宮城県総務部私学文書課課長代理と

して齋藤順子副参事 が祝辞を代読しまし た。その中で、熱意 ある御尽力により再 開された園に敬意と 感謝を表し、今後と も県として不登校率 の上昇や心のケアに



全力で取り組んでいきたいとの決意が語られました。また 新制度への移行は事務手続きで負担をいただいたが円滑に 行われ、移行園28園の支援を含め、幼児教育の更なる充実 に努力したいと述べられました。

次に来賓として宮城県県議会議員で宮城県私立幼稚園PTA連合会会長の渥美巖氏が祝辞を述べ、震災集中復興期間から震災復興・創生期間へ移行するに当たり地元負担が増えること、また私学振興が全国42位の現状から県勢に見合ったものにすること、消費税の子ども子育て充当分と保育料無償化に向けてなどの諸課題についてお話しいただきました

その後、議長として石巻みづほ幼稚園の津田廣明先生、 泉ヶ丘幼稚園アルル保育園の久保寿孝先生を選出、更に議 事録署名人として大野田幼稚園の庄子俊明先生、たんぽぽ 幼稚園の伊藤誠先生を選任し、議事に入りました。

第1号議案として平成27年度の一般会計及び退職手当資金給付事業特別会計の補正予算並びに受託事業収支予算が

審議され異議なく承 認されました。第2 号議案として来年度 の事業計画について、 第3号議案として一般会計と退職手当資 金給付事業特別会計 の予算案が審議され



いずれも議案書通り承認可決いたしました。報告としては、宮私幼施行規則の一部改正及び平成29年度の東北地区私立幼稚園教員研修大会〈宮城大会〉について報告されました。同研修大会での公開保育は塩釜・多賀城地区が担当することになっています。募集日程等については例年通り10月1日募集11月1日願書受付となります。以上をもって総会を終了しました。(早坂文彦)

五.

幼稚園訪問言



美田園わかば幼稚園

〒981-1217 名取市美田園 6 丁目 16-10



幼稚園園児数 78名

(満3歳児5名、3歳児23名、4歳児37名、5歳児13名)

※平成28年3月18日現在

美田園わかば幼稚園では

保育時間 8時30分~14時

預かり保育 早朝:8時~8時30分

降園後:14時~18時

调3回(月·水·金曜日:業者給食) 給 食

1台(約30分) バス送迎

わかばクラブ (月1回、定員30名、会費3,000円/年) 未就園児教室

《概 要》

昭和30年に開園し、56年にわたり、 地域の幼児教育に携わってきた「閖 上わかば幼稚園 | が、平成23年3月 の東日本大震災により全壊し、その 後、3年間の休園を経て、閖上から美 田園に場を移して、平成26年4月に 「美田園わかば幼稚園」(定員 105 名) 園長 遠藤 茂樹 先生



と改名して再び開園しました。現在、2年目を迎え、新 しい幼稚園として、地域の方々と共に、未来ある子ども たちの健やかな育成に努めています。

2月2日(火)取材当日は、豆まきの日でした。ホール での集まりの後、クラスに分かれて鬼が来るのを待ちま

す。鬼が太鼓をどん どんと鳴らしながら クラスに入って来る と、一斉に「鬼は外!」 の園児の元気な声が響 き、鬼に豆をぶつけ て追い出し、満足げ な表情です。



《教育の目標・目指す子どもの姿》

- 教育理念及び4つの基本理念<①個性尊重②郷土愛・ 文化の継承③家族愛・愛国心④世界平和>を受けて、 目標の達成に努めています。
- ◇ 教育目標:基本的な生活習慣を身に付け、心身とも に健康で人間性豊かな小さな紳士・淑女を育てる。
- ◇ 目指す子どもの姿:
 - ・ 自分で考え、行動する子ども(自立)
 - ・ 何ごとにもくじけず、頑張る子ども(挑戦)

・ 優しさと思いやりの心で、助け合う子ども(協調)

《開園 2 年目の現状と特色》

白いテント屋根のユニークなフォルムの園舎の内部は、 1フロアに4クラスの保育室、ホール、ステージ、絵本

コーナーなどが配置 されており、状況に 応じて工夫して施設 を活用しています。 また、渡り廊下でつ ながっている厨房を 備えた多目的室は、



預かり保育や英語、茶道教室に 使用しています。園舎は、釘で はなく全てボルトで固定してあ り、園舎の周りをぐるりと囲む ベランダの天井の支えは、装飾 的です。園児数の増加により、



今年度は、運動会は小学校、生活発表会は公民館をお借 りして実施しました。来年度も、園児が増えるので、施 設面での整備が急がれるとのことで、より良い環境を整 えるために、今年度就任された遠藤茂樹園長先生が奔走 されています。

保育面では、通常保育の中に、「英語教室」や「茶道教室」 を取り入れ、異文化及び日本文化に親しむ保育環境の構 築を図っています。

- 英語教室: 基本理念の「世界平和」(友情を築き、世界 中の人と仲良くしようとする心を育てる)の具現を図 る。
- ・ 茶道教室: 基本理念のひとつである「郷土愛・文化の 継承」(ふるさと名取の歴史・文化・自然・誇りを伝える) の具現を図る。
 - この他にも基本理念のひとつである「家族愛・郷土愛・ 愛国心」の具現の機会を積極的に取り入れています。
- 先人の想いや地域の歴史に触れさせるための名取の史 跡を訪ねる園外保育
- 地域の人とのかかわりを体験させるための老人介護施 設訪問
- ・東日本大震災の被災園として、復興に携わる人や地域 を守る人に目を向けさせる機会としての消防署見学

(小川せつ子・鎌田俊昭)